

# NEWS RELEASE

平成 19 年 7 月

## 「景気回復と消費マインドに関するアンケート」調査結果について

景気拡大期間が戦後最長となるなかで、雇用不足に伴う賃金への波及など、今後は企業部門の好調さが家計部門に及び個人消費は拡大すると言われてしています。

そのような中、株式会社 第三銀行（頭取 谷川憲三）では、景気が好調な三重県において、三重県内の住民が景気回復をどのように実感し、また果たして消費行動に変化が現われているかを知るため、当行三重県内本支店（64 店舗）の来店客を対象にアンケートを実施しました。今般、その調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

記

### ★調査結果のポイント

1. 現在の景気をどう感じるか尋ねたところ、「悪い」「どちらかと言えば悪い」と答えた人の方が多く、景気は良いと言われてはいますが個人の実感としては、まだそこまで至っていない様子が見えられます。その理由として「収入」や「会社の経営状況」の現状など個人の所得への波及が遅れていることが要因として考えられます。
2. 収入については、若い年代ほど「増加した」とする回答が多く、最近の人手不足に対する人材確保を背景に若い人を中心に所得が若干増加しているようです。一方、貯蓄については景気回復により貯蓄を取り崩す動きは減少してきているものの、教育費やローンの負担の多い 40 代から 50 代では依然厳しい様子が見えられます。
3. 支出については、40 代以下で「増加した」とする回答が多く、日常的な支出に加え、レジャー・洋服・耐久消費財などの支出についても 1 年前と比べ「増加した」が「減少した」を上回るなど、消費マインドは少し上向いてきている様子が見えられます。

（詳細は別紙をご参照ください）

本件に関するお問い合わせ先

|   |   |              |                  |
|---|---|--------------|------------------|
| 担 | 当 | 総合企画部広報課 尾 崎 | TEL 0598-25-0363 |
|   |   | 経済研究所 下 村    | TEL 0598-25-0366 |

キラリと光るあなたの銀行



## 景気回復と消費マインドに関するアンケート調査

景気拡大期間が戦後最長となるなかで、雇用不足に伴う賃金への波及など、今後は企業部門の好調さが家計部門に及び個人消費は拡大すると言われていています。こうしたなか、景気が好調な三重県において、三重県内の住民が景気回復をどのように実感し、また果たして消費行動に変化が現われてきているかを知るため、三重県民の意識調査を行いました。

### 1. 調査方法の概要

- (1) 調査方法：当行三重県内本支店を通じたアンケート調査
- (2) 調査時期：平成 19 年 5 月中旬～下旬
- (3) 調査対象者（数）：三重県内本支店 64 店舗（出張所含む）の来店客 1,000 名
- (4) 有効回答者数（率）：982 名（98.2%）

#### 【回答者の状況】

(単位：人)

|        | 29 歳以下 | 30 歳～<br>39 歳 | 40 歳～<br>49 歳 | 50 歳～<br>59 歳 | 60 歳以上 | 合計    | 構成比(%) |
|--------|--------|---------------|---------------|---------------|--------|-------|--------|
| 男 性    | 51     | 52            | 56            | 74            | 84     | 317   | 32.3   |
| 女 性    | 148    | 126           | 154           | 143           | 94     | 665   | 67.7   |
| 合 計    | 199    | 178           | 210           | 217           | 178    | 982   | 100.0  |
| 構成比(%) | 20.3   | 18.1          | 21.4          | 22.1          | 18.1   | 100.0 |        |

※集計結果につきましては、年齢、性別等の回答者数の多少により、計数面に若干の偏差があると思われるので、ご了承ください。

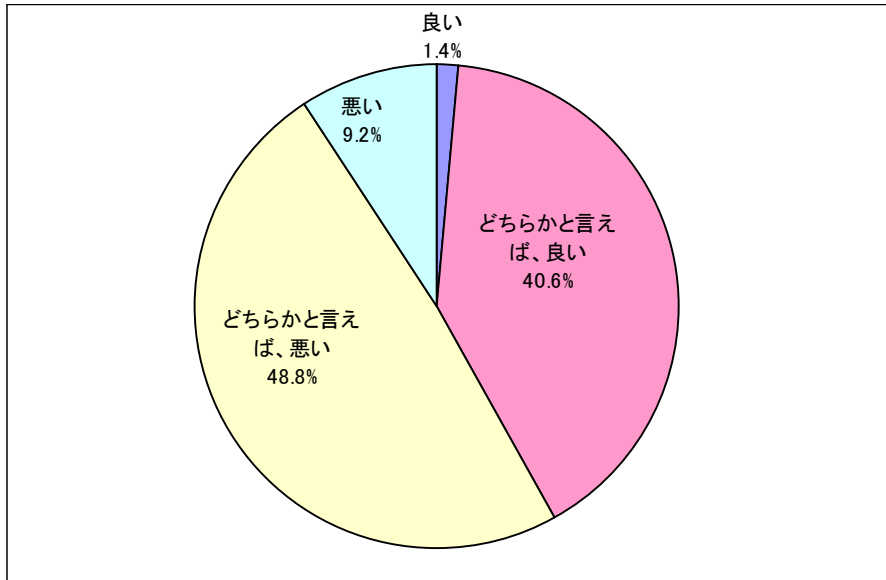
### 2. 調査結果の概要

調査結果の概要については、次ページ以降をご参照ください。

# NEWS RELEASE

## 調査結果の概要

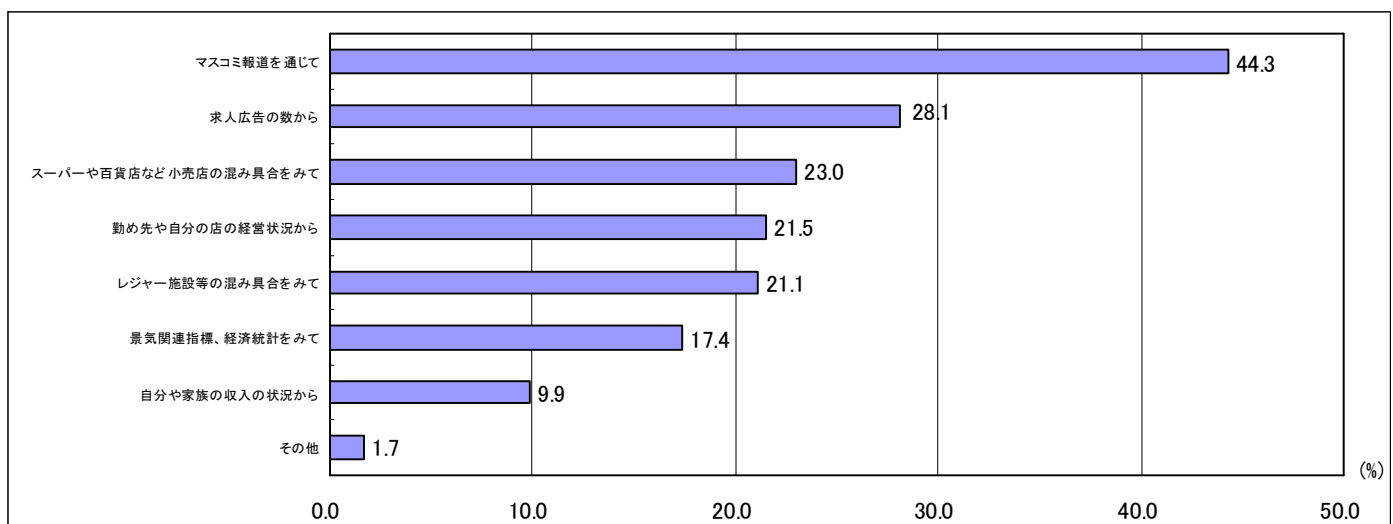
問1. あなたは、現在の景気をどう感じますか。



「良い」と「どちらかと言えば、良い」を合わせると42.0%、「悪い」と「どちらかと言えば、悪い」を合わせると58.0%の回答となり、景気は悪いと感じる人の方が多い結果となりました。経済指標等では景気は良いとされていますが、個人の実感としてはまだそこまで至っていない様子が見えられます。年代別では、若い年代で、「どちらかと言えば、良い」との判断が多く、逆に40代以上では景気に関して厳しい判断となりました。

### 【問1で「良い」「どちらかと言えば、良い」と答えた方への質問】

問2. そのように感じるのはどのような理由からですか。(複数回答)



キラリと光るあなたの銀行

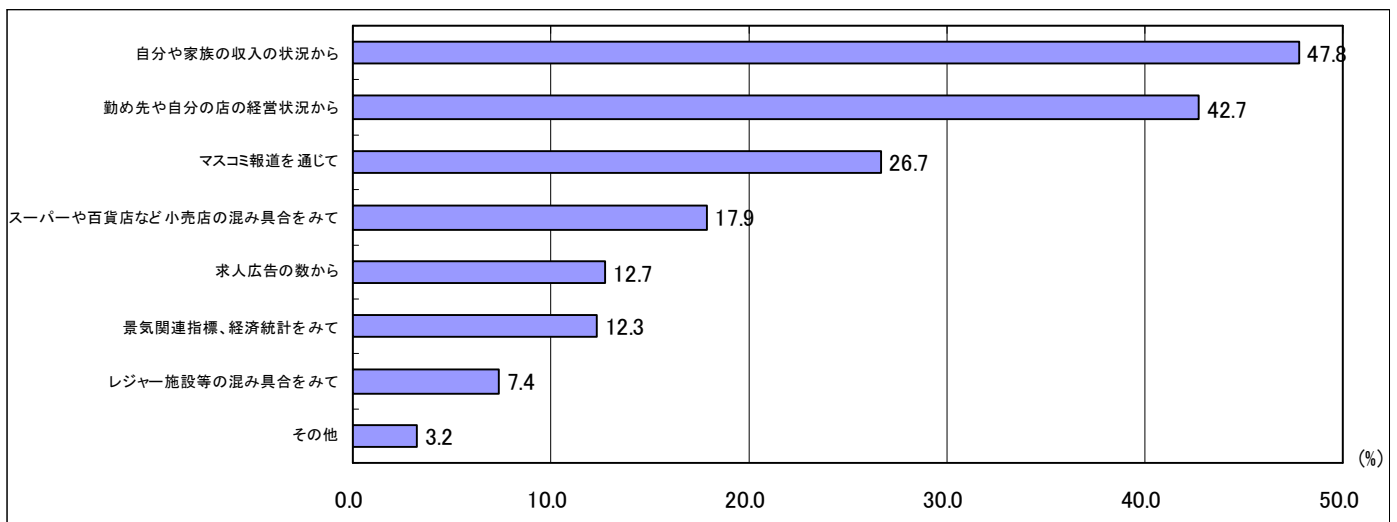


# NEWS RELEASE

「マスコミ報道を通じて」といった回答が一番多く、次いで「求人広告の数から」とする回答が多くなるなど、外部要因による回答が多くなりました。男女別では、男女ともに「マスコミ報道を通じて」が第1位ですが、男性では第2位に「求人広告の数から」「勤め先や自分の店の経営状況から」「景気関連指標、経済統計をみて」が並んでおり、女性は「スーパー」や「レジャー施設」の混み具合など目で確認できることから判断する人が多いようです。

## 【問1で「どちらかと言えば、悪い」「悪い」と答えた方への質問】

問3. そのように感じるのはどのような理由からですか。(複数回答)

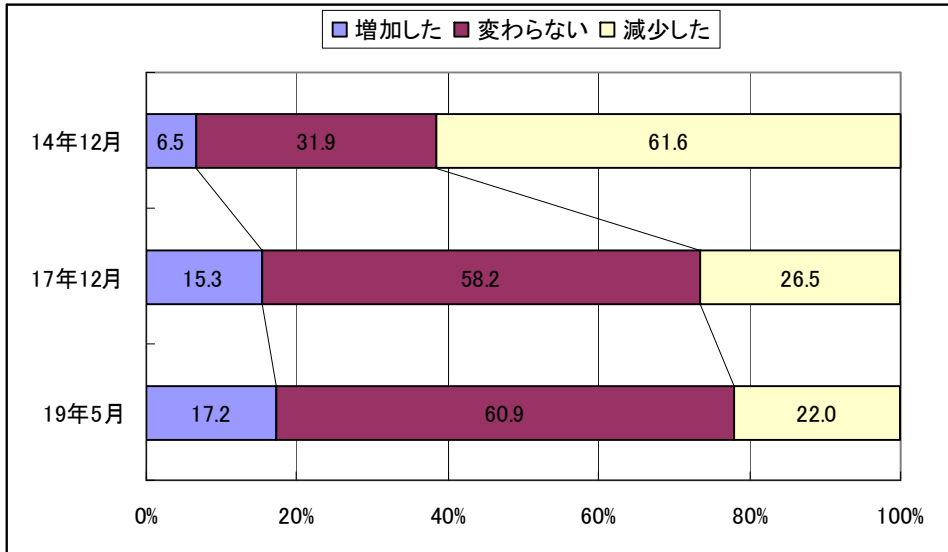


前問とは逆に、「自分や家族の収入の状況から」とか「勤め先や自分の店の経営状況から」判断する回答が多くなっています。両者ともに自分の生活実態に即した回答であり、やはり景気は回復していると言われているものの、個人の所得への波及が遅れていることが要因と考えられます。男女別では、男性は「勤め先や自分の店の状況から」が過半数で第1位、女性は「自分や家族の収入から」が過半数で第1位でとなっており、「景気が悪い」と判断した人は、「収入」や「会社の経営状況」の現状に満足していない人が多い様子が見えます。

# NEWS RELEASE

## 【収入に関する質問】

問4. 1年前と比べて、あなた又はあなたの家族の収入はどう変わりましたか。

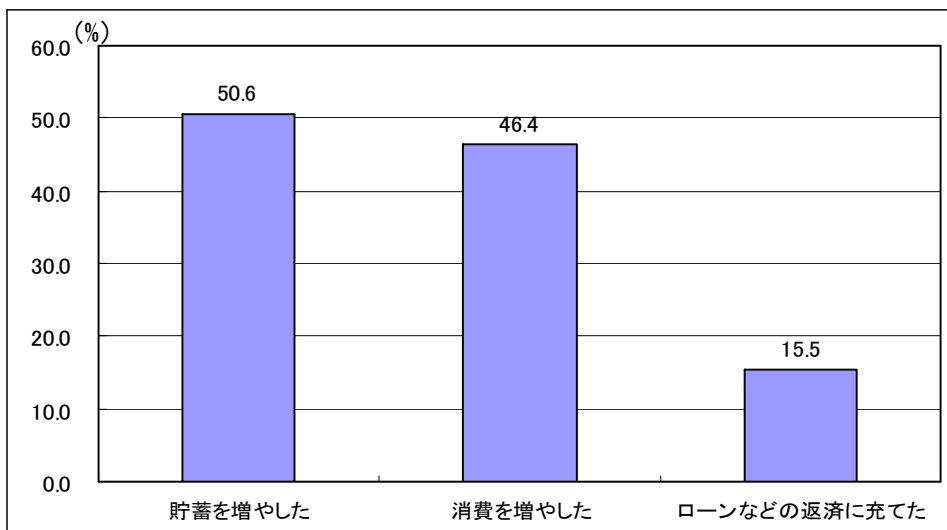


「変わらない」が60.9%で第1位となっていますが、平成14年12月と平成17年12月に行った調査と比較すると「減少した」という回答が減り、「増加した」とする回答が徐々に増えていることがわかります。ただ問3でも述べましたが、景気は回復していると言われているものの、所得への波及が遅れている様子が見えます。

一方、年代別では、「増加した」とする回答は若い年代ほど多く、高齢者ほど「減少した」とする回答が多くなりました。最近の人手不足に対する人材確保を背景に若い人を中心に所得が若干増えているものと考えられます。

## 【問4で1年前と比べて収入が増えたと答えた方への質問】

問5. 収入が増えたことで、どのような変化がありましたか。



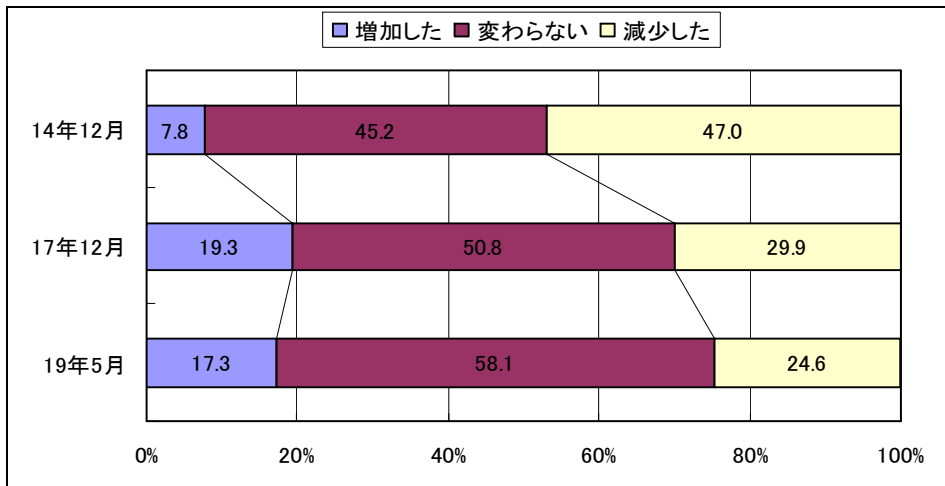
キラリと光るあなたの銀行

# NEWS RELEASE

問4で収入が増えたと答えた回答者に、その使い道を尋ねたところ、「貯蓄を増やした」と「消費を増やした」がほぼ同じ割合となりました。収入が増えても消費だけに回さず、将来のために貯蓄もしておくという意識が強いものと考えられます。

## 【貯蓄に関する質問】

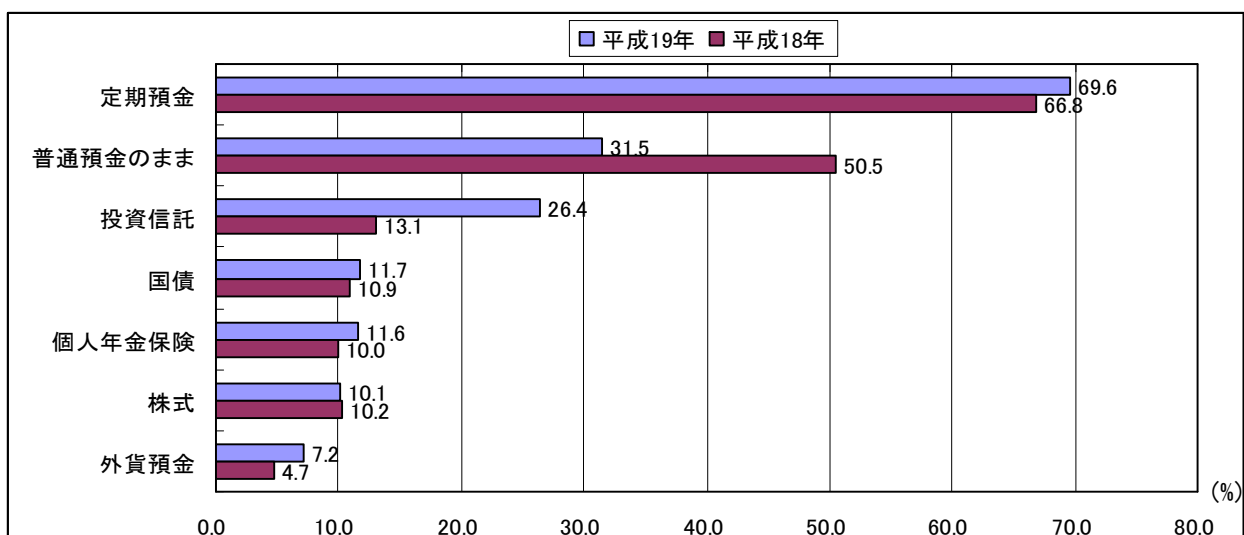
問6. 1年前と比べて、あなたの貯蓄に変化はありましたか。



「変わらない」が約60%となりました。問4. と同じように過去2回のアンケートと比較すると、「減少した」は徐々に低下してきており、景気回復により貯蓄を取り崩す動きは減ってきていることが分かります。ただ、「増加した」とする回答は平成17年12月とあまり変わっておらず、貯蓄を増やすほど生活面の余裕はまだ高まっていないことがうかがえます。

一方、年代別では、「増加した」とする年代は30代以下で多く、逆に「減少した」との回答は教育費やローンの負担の多い40代から50代で多くなっています。

問7. あなたは、貯蓄をするとしたら、どのような金融商品を選びますか。(3つ以内で選択)



キラリと光るあなたの銀行



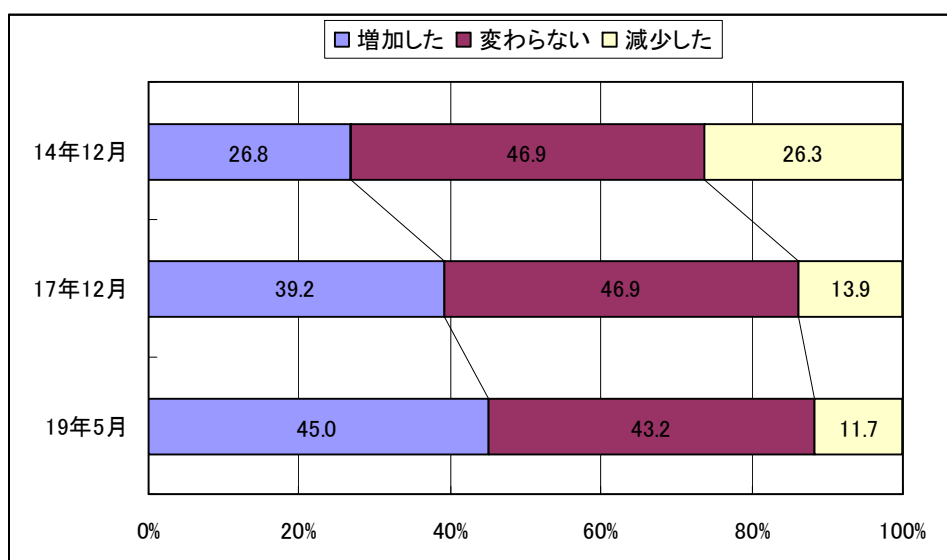
# NEWS RELEASE

「定期預金」が約7割、「普通預金」が約3割と銀行預金が相変わらず圧倒的に多くなっています。ただ、当行が昨年行った冬のボーナスでの金融商品の選択では、今回と同じく第3位だった投資信託が、今回は26.4%と大きく13.3ポイント上昇しており、「貯蓄から投資へ」といった流れが強まっていることがうかがえます。また、金利の上昇もあって、「定期預金」の回答も増加しています。

男女別では、男性の第4位に「株式」が選ばれているのに対し、女性では株式は少なく、特に定期預金の比率が高いなど安全志向が強いことがうかがえます。

## 【支出に関する質問】

問8. 1年前と比べて、あなた又はあなたの家族の支出はどう変わりましたか。



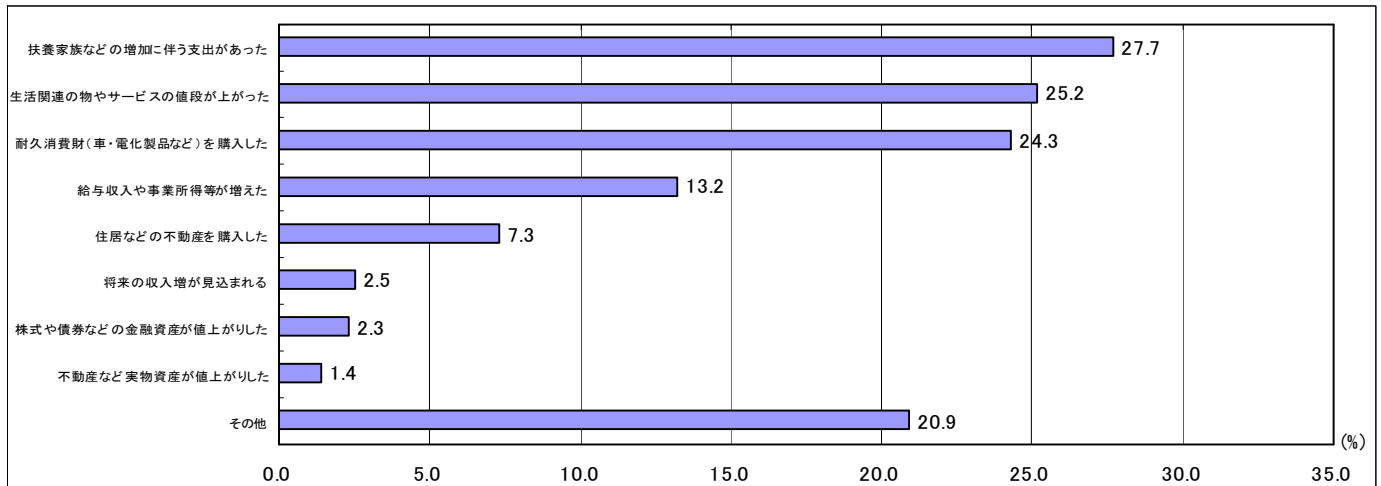
支出が「増加した」が45.0%と17年12月の調査時を5.8ポイント上回り、「減少した」は2.2ポイント低下しており、回答者の支出の割合が徐々に増加していることがうかがえます。

年代別では、男女とも30代・40代で「増加した」とする回答が多くなっています。一方、「減少した」とする回答は50代、60代で多くなっています。

# NEWS RELEASE

## 【問8で支出が増加したと答えた方への質問】

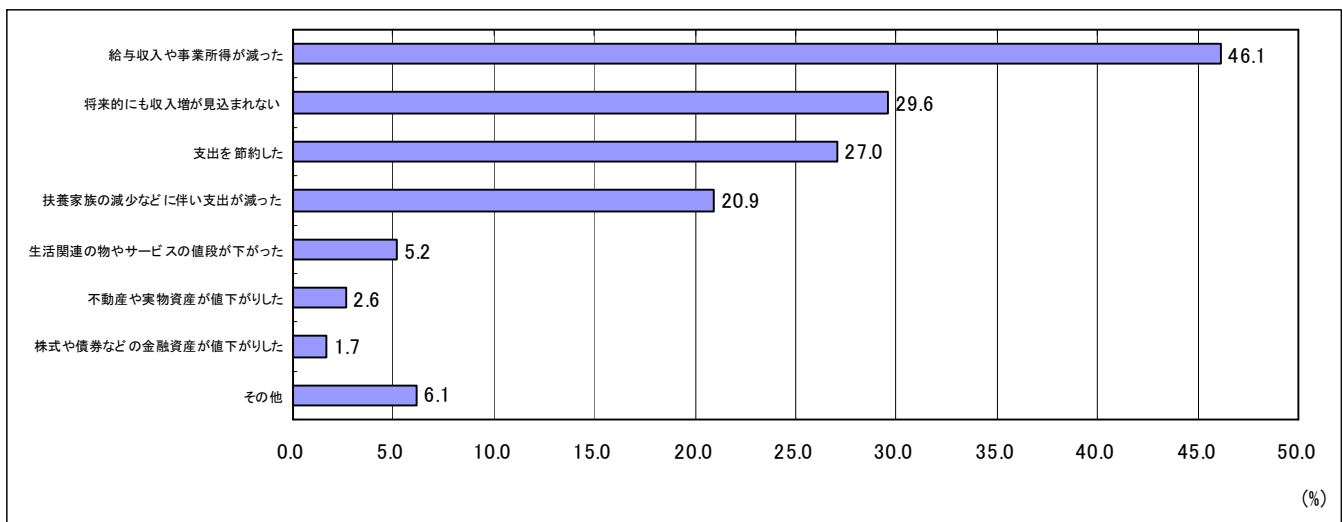
問9. 支出が増加した理由はどれですか。(複数回答)



支出が増加した人は、「扶養家族などの増加に伴う支出があった」「生活関連やサービスの値段が上がった」「耐久消費財(車・電化製品などを)購入した」といった理由が上位を占めていますが、「給与収入や事業所得が増えた」ことによる増加は第4位にとどまっています。20代では収入の増加による支出の増加の回答がみられますが、他の年代では収入の増加に伴う支出の増加というよりも、「扶養家族の増加」や「物価の上昇」など止むを得ない理由によって支出が増加したとする回答が多くなっています。また、「その他」の理由としては「学費・教育費」がほとんどとなっています。

## 【問8で支出が減少したと答えた方への質問】

問10. 支出が減少した理由はどれですか。(複数回答)。



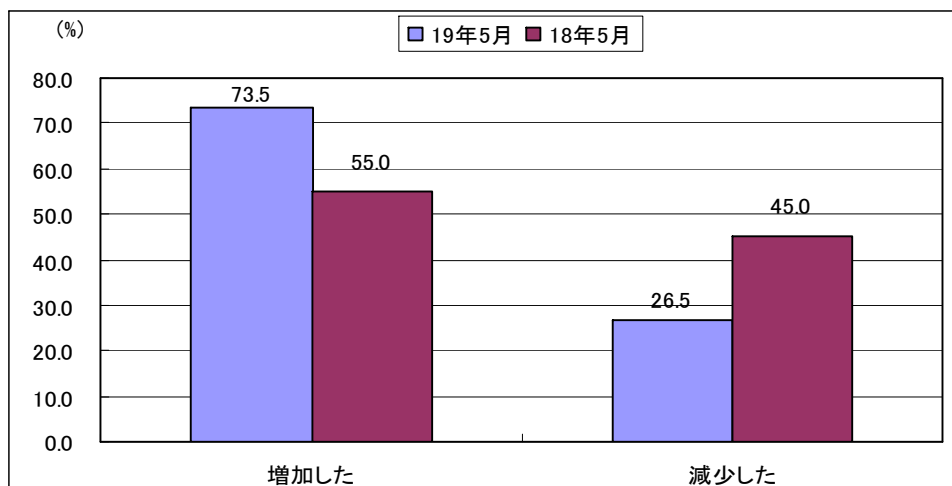
支出を減らした人は、「給与収入や事業所得が減った」が第1位で、次いで「将来的にも収入増が見込まれない」となっており、収入の減少により支出を抑えざるを得ず、それに伴い「支出を節約した」とする回答も多くなったものと考えられます。

キラリと光るあなたの銀行

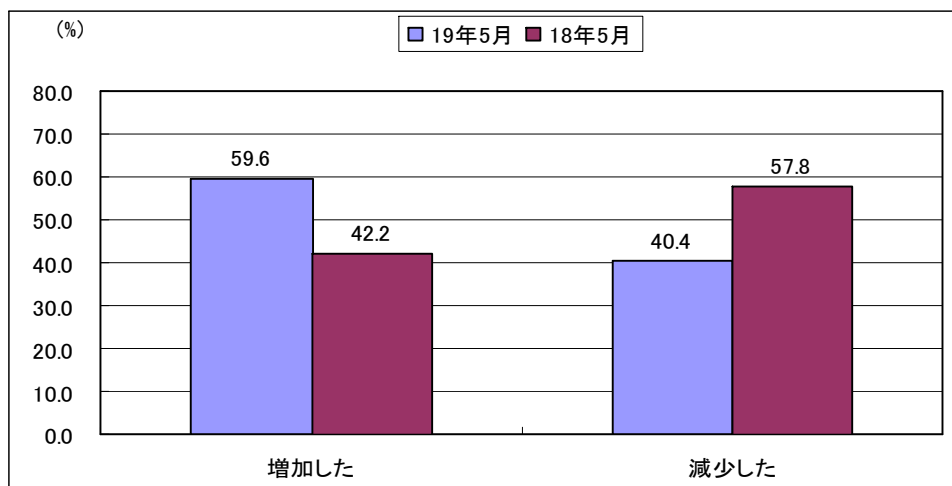


# NEWS RELEASE

問 11. 1年前と比べ、あなた又はあなたの家族では、生活費や教育費などの日常的な支出に変化はありましたか。



問 12. 1年前と比べ、あなた又はあなたの家族では、レジャー・洋服・耐久消費財などの支出に変化はありましたか。



日常的な支出については、「増加した」が73.5%となり、昨年5月に行った調査より18.5ポイント上昇しました。問9の支出増加の理由にみられるように、「必要に駆られて止むを得ず」といった要因も大きいと考えられますが、消費が徐々に回復している様子が見えてきます。年代別では、40代以下で「増加した」とする回答が多くなっています。

一方、レジャー・洋服・耐久消費財などの支出については、昨年5月の調査と比べ「増加した」が「減少した」を上回り逆転しました。日常的な支出に加えて、レジャー・洋服・耐久消費財などの支出が増加に転じたことで、消費マインドは少し向上してきていると言えそうです。

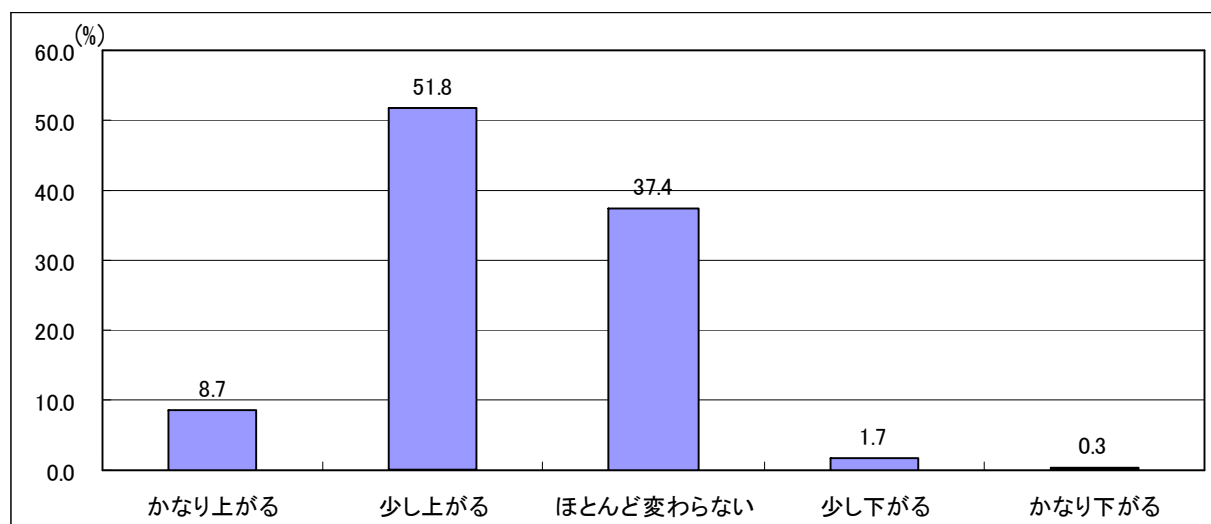
年代別では、20代、30代で「増加した」とする回答が多くなっています。人出不足から若い人ほど収入が増加し、それに伴い支出が増加していることや、団塊ジュニアの不動産購入に伴う支出の増加が要因と考えられます。

キラリと光るあなたの銀行



# NEWS RELEASE

問 13. あなたは、1年後の「物価」は現在と比べるとどうなると思いますか。



全体では、「少し上がる」との回答が過半数となり、「かなり上がる」と併せると約6割となりました。最近の原油価格の上昇やバイオエタノールに関連して一部の食料品等が値上がりしていることが背景にあるものと考えられます。男女別、年代別の比較でも同じ結果となりました。

以上